

キャラバン・メイト通信

2022秋号



「キャラバン・メイトいが」が、メイトの皆さんと事務局で、手探り状態で発足してから早6年。時代の流れと共に認知症への認識も、「予防」から「共生」へと変化してきています。今回は初心に戻り、「キャラバン・メイト」について振り返ります。

「キャラバン・メイト」とは



- キャラバン・メイト養成講座を受講し、全国キャラバン・メイト連絡協議会に登録された人のことをいいます。
- 認知症サポーター養成講座の講師役
学んだ知識や体験等を地域、職域、学校などで市民に伝え、「認知症サポーター」を養成します。
- 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに向けて、関係機関・組織・団体等への働きかけ、協力・連携体制づくり、ネットワーク化を推進し、地域のリーダー役を担います。

「キャラバン・メイトいが」のあゆみ

- 平成28年に活動を開始、キャラバン・メイト登録者の中から有志が集まり、交流会という形で認知症について学習を深め、その後年に数回サポーター養成講座を開催しています。令和元年に「キャラバン・メイトいが」として組織化され、活動の場を広げています。

「キャラバン・メイトいが」の活動・今後の展望



●サポーター養成講座の実施

平成28年の発足時から現在まで14回のサポーター養成講座を主催し、330人のサポーターを養成しました。また市主催の学校や地域・職域での養成講座にも寸劇や朗読等で参加しています。現在はコロナ禍で思うように活動できませんが、10/8(土)にゆめポリスセンターで養成講座を開催予定です(市民対象、キャラバン・メイトいが主催)。認知症について分かりやすく伝えるため、講義内容、寸劇など、時世に応じてバージョンアップさせています。

●定例会の開催

活動計画を立てたり、勉強会を実施して学びを深めています。「共生」社会に向けて、自分たちができることは何か、話し合いを重ねています。

●認知症カフェへの参画

認知症の本人の方の憩いの場になるよう、また介護者の方の安心できる場になるよう、共に活動します。

キャラバン・メイトを紹介します（その①）



キャラバン・メイトいがで活躍するメンバーを、今後数回に分けて紹介します。
まずは、発足当初から活動している頼りになる会長・副会長です。

会長 中西 宜幸



メイトのまとめ役



認知症サポーターへの思い

私は民生委員を務めた事がきっかけでこの活動を知りました。当時母が認知症前期だったのがそもその始まりで、【認知症】がこれからの日本社会の高齢化に伴って様々な問題が生じる事が予想され、私自身どんな形で社会貢献が出来るか考えていた時に、キャラバンメイトに出会って活動を始めました。生涯学習のつもりで仲間の皆さんと共に続けておりますが、終わりのない社会問題であり、包括の方々の支援の下、手探りでの活動は自身の人間形成にも欠かせない存在となっています。

2005年秋に私は研修を受けキャラバンメイトになりました。民生委員や介護相談員をしている中で 認知症について正しい理解やそのサポートがとても大切なことを感じていたからです。始めのうちは 今ほどキャラバンメイトが知られておらず 地域で活動していく機会もありませんでしたが 地域包括支援センターからお声掛けをいただき「キャラバンメイトいが」を立ち上げてからは メンバーと共に様々な場所でサポーター養成講座を行うようになり現在に至っております。

伊賀市が 認知症の人が安心して暮らしていけるまちになるよう これからもこの活動を続けていきたいと思っております。

副会長 石山 淑子



メイトの癒しの君



副会長 田村 千栄子



メイトの看板女優



ボランティアに興味を持ち、「かしのみ園」心身障がい児のお手伝いをさせていただいたのが第一歩です。「いが悪徳バスターズ」の活動も20年近くになります。

認知症にも関心を持ち、キャラバンメイト養成講座を修了。「いきいき教室」等で学びを深め認知症は奥が深いことを知りました。「キャラバンメイトいが」では素敵なメンバーと劇や脳トレ講座を持ち、楽しく活動しています。

自分の好きなことを一生懸命やって、人生百年時代に自分らしく暮らせたらと思っています。

【事務局からのお知らせ】

この通信は、メイトのみなさんへの情報提供や交流の場として不定期にお届けしています。交流会や通信についてのお問い合わせは下記までご連絡ください。



地域包括支援センター南部サテライト(担当:木澤) 電話52-2715